

教育理念	一 真理の探究      一 自他の敬愛      一 責任の完遂		
学校教育目標	1 現代社会におけるグローバル化・情報化の進展や産業技術の発展をふまえるとともに、生涯にわたる人間形成の基礎を培い、多様な科目を開設して生徒の個性を伸長させる。 2 将来の職業選択を視野に入れた進路設計への自覚を深めさせ、社会の変化に主体的に対応できる心身ともに健康な人材を育成する。 3 マンツーマン指導を基本として、個々の生徒の興味・関心・能力・適性及び進路等にきめ細かく対応し、それぞれの希望する進路実現を支援する。		
中期目標	(1) ライフプランを考え、第一希望で進路実現させ得る組織的な学校づくり (2) 体系化されたキャリア教育のシステムによる「生きる力」を育成する学校づくり (3) 授業等の様々な学習活動を通じて、健康な心身と体力を育成する学校づくり (4) 地域社会と連携し信頼される、開かれた学校づくり (5) 知識の確実な定着と実践的思考力を養う、魅力ある授業の研究 (6) 特色ある系列と進路実現に有効な科目選択の研究	総合評価	・今年度も概ね目標を達成できた。学年毎に生徒の状況に合わせて「探究的な学び」を意識し、キャリア学習の充実を図り社会への関心や職業観を醸成することができた。また、科目選択を通して各自の進路を自覚できるように指導することができた。これからは家庭との連携を深め生徒の自己実現に向けた学校運営を心がけたい。 ・公開授業、中学校訪問等により中学生に本校の魅力をアピールすることができた。また、「シオジリ学」等により地域との連携も深めることができた。生徒会活動でも生徒が主体的に地域と関わる場面が増え学校生活に潤いをもたらしている。
今年度の重点目標	① 適切な科目選択やキャリア教育の充実、学力向上による進路実現を目指す取り組み ② ICTの活用と生徒一人ひとりの探究的な学びの支援を通し、「生きる力」を育む学校づくり ③ 地域社会、保護者との連携、中学校との情報交流による開かれた学校づくり ④ 生徒に寄り添い、いじめや体罰のない、安心安全な環境の確保		・家庭との連絡を密に取り、生徒の状況を共有しながら指導することができた。校内では様々な場面で生徒一人ひとりと関わりを持ちいじめ等を未然に防ぐように対応してきた。引き続き生徒が安心して生活できるような支援を心がけたい。

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
教務	1 生徒が安心して学校生活を送り、確かな学力と豊かな人間性を育めるよう他部署との連携を図り、円滑な学校運営を行う。	①②④	ア 月暦・日課等の周知徹底 イ 授業研究・授業公開の実施、サポート ウ 各種研修の推進、サポート	A	・行事の計画、運営が円滑に行えた。・日課周知を早めに行いたい。・考査の年間予定を作成した。監督割等早めに周知したい。	・準備を早め、予定の周知に努めたい。・公開授業の機会を利用し授業研究を行えるような工夫が必要。
	2 本校の教育内容の充実を図り、その成果を積極的に保護者、地域、中学生に発信し、地域に理解され信頼される学校作りを目指す。	②③	エ 公開授業および体験授業の充実 オ 進路講話・出前授業を実施し本校に対する関心を高める。 カ Webサイトの活用、ブログの発信等による本校の活動の紹介 キ 本校の特色や入学選抜について中学生に周知していく。	A	・学校説明会に多くの中学生が参加した。公開授業、中学校訪問、進路講話、出前授業などを通し、本校の様子を発信できた。	・中学生向けの活動をより充実させたい。Webサイトの充実を各部と連携しながら進めたい。・引き続き地元中学校との連携を取り本校への志願者を増やしていきたい。
進路指導	1 職員間で情報を共有し、各部署と連携しながら体系的・組織的に指導できる体制を整える。	①②	ア 進路意識の向上、基礎学力の定着を図るため、各部署と連携してより効果的な取り組みを考える。 イ 学びの基礎診断ツールの効果的な活用を研究する。 ウ ICTを利用した学習支援の研究をする。 エ 職員向けの研修会を実施する。	A	・各学年、定着してきた進路指導の流れに沿って他と連携しながら実施できた。 ・入試改革に向けて導入したツール等の活用方法をさらに研究したい。	・GTECについては実施の有無を改めて検討し、英語の外部試験対策について確認したい。
	2 進路実現に向けて自ら積極的に行動できる生徒の育成を図る。様々な資格試験の受験を奨励する。	①②	オ 補習授業(桔梗塾含む)、模試、各種検定に積極的に取り組む生徒を増やす。 カ ポートフォリオを利用し、目標設定・振り返りの習慣化を図る。 キ 進路通信、志学の時間を通して進路意識の啓発に努める。	A	・進路資料室を利用する生徒が増えた。(勉強クラブ含む) ・年間通してポートフォリオの活用ができた。(1,2年) ・進路通信、志学の時間を活用することができた。	・Classiについては手探りの状態で始めたが、初年度としては十分に活用できた。今後もポートフォリオの機能を中心に負担にならない程度に活用の幅を広げていきたい。
生徒支援	1 「対話と共感」、「自立と支援」の生徒指導 ①基本的な生活習慣の確立 ②服装・髪型等の身だしなみを整える ③貴重品の管理、携帯・スマホ利用に関する注意喚起 ④交通事故の未然防止	②③④	ア 職員の共通理解と意識を統一し、生徒への声かけを大事にする。 イ 家庭との連絡や相談、スクールカウンセラー等の有効活用などで生徒や保護者を支援する。 ウ HR担任、教科担任、生徒会、クラブ顧問との連絡を密にし、生徒個々の動向を明確に把握できるようにする。	A	・生徒動向を職員間で共有し、生徒支援に努めることができた。 ・校内巡視を実施した。教室での盗難被害は1件あったが、部室や更衣室での被害はなくなった。	・職員間での情報共有、保護者との連絡を密にし、多くの目で見守る生徒支援に努める。 ・各種講演会の充実や、機を捉えた注意喚起を行い、規範意識や自己管理能力を育てる。
	2 いじめを出さない学校づくり ①いじめに対する未然防止、早期発見、早期対応、再発防止を組織的に取り組む ②常に開かれた相談態勢を整える	③④	エ 学習、行事、生徒会、クラブ活動を通して、学校生活の積極的な意義を見出すよう指導援助する。 オ 交通安全指導を折りにふれて行ない、生命を尊重し安全を確認して行動する習慣を確立させる。	B	・面談やアンケート等の活用により、いじめの未然防止に努めることができた。いじめに対し早期対応を心掛ける。 ・専門機関とも連携し対応することができた。	・面談やアンケートは継続して行なう。 ・支援の必要な生徒には、相談室を窓口し各部署・専門機関と連携をとり対応する。

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
キャリア教育推進	1 総合学科の特徴を活かして社会の変化に対応したキャリア教育を行う。	①②③	ア. 科目選択が生徒にとって自己の可能性を広げる機会となるようシステムや指導方法を見直し、工夫することができたか。 イ. 生徒が10年、20年先の社会を見通して自分の将来を考え、社会の一員となる自覚を持てるよう指導することができたか。	A	学年ごとに生徒の状況に合わせたキャリア学習と科目選択作業を通して、社会への興味関心、職業観を育てることができた。8割を超える生徒が学習成果を実感している。	生徒本人が学習成果を感じている一方で、保護者には学校の取組が十分に理解されているとは言えない状況がある。学校と家庭とが協力してキャリア学習を行える体制づくりを考えたい。
	2 キャリア教育に係わる「探究的な学び」を計画・実行する。	①②③	ウ. 個々の生徒が将来の具体的な目標を定め、積極的に学習に向かう姿勢を持たせることができたか。 エ. 高大接続改革に対応できるよう、生徒にポートフォリオの活用を促し、行動させることができたか。	A	「探究的な学び」を意識しながら各学年のキャリア学習計画を立て、実践することができた。全学年で学習発表会を行うこともできた。	蓄積したポートフォリオを進路実現につながるように進路指導部と連携して具体的な活用方法をみつけていた。
	3 地域との連携を深め、総合学科高校としての本校の魅力を高める。	①②③	オ. 「シオジリ学」を全学年で取り組む学習プログラムとして体系化することができたか。 カ. 生徒の活動や学習成果を広く発信することができたか。	A	3年間通じて「シオジリ学」という形で地域と直接関わる学習ができた。3年次の「シリゼミ」では塩尻市の活性化をテーマにしたグループワークにも取り組めた。	4年目となる「シオジリ学」がマンネリ化しないように、学習内容を工夫したい。
生徒会	1 生徒会活動に参加することにより、豊かな人間性を育て、相互理解を深める。	①②④	ア. 生徒会活動を通し、生徒相互の関わりを深め、コミュニケーション能力の向上を図る。  イ. 目標の達成を目指し、継続的な努力をする事で、高校生活に対する達成感を持たせる。	A	生徒会活動や部活動を通して、生徒たちの関わりは広く深くなったと考える。 SNSを介して意見のやり取りをすることが多い生徒たちにとって、相互理解を深める大切な機会となっていると思う。  クラブの継続審議は3年目となった。互いのクラブ活動に興味を持ち、また自分たちのクラブ活動の成果を仲間に伝え見つけ直す機会として、有意義な活動となっていると考える。 地域行事への参加など恒例となっている行事についても、志学館高校生徒会という誇りを持ち、より良い活動をしようと努力している姿が見られた。	生徒会活動が、生徒の人的成長に欠かせない重要な活動であることを全職員が意識し、より一層連携感を持って、部活動や生徒会活動に携わる。  部活動については、今後の学級減を見越し、クラブ継続審議がより実効性のあるものとなるように、生徒会規約の一部改訂を行った。今後も実情に見合った改訂を行う。
	2 生徒自らが自覚と責任を持って活動することにより、主体性をはぐくむ。	①②④	ウ. 明確な目的を持たせ、立案、企画運営を行わせる事で、リーダーとしての資質を向上させる。  エ. 生徒会活動を通し、ひとりひとりの役割を理解することで、互いに協力する関係をつくる。	A	各企画の立案・企画運営を、前年度踏襲ではなく「やるかやらないか」「なぜやるのか」という原点に立ち返り行った。生徒たちは、今までの先輩達の活動の意味を学ぶとともに、自分達らしい活動を求めて、様々な観点で物事をとらえ活動できるようになったと思う。  文化祭では、3年生を中心に積極的にまとまりのある企画運営を行った。意見をたたかわせる中で繋がり的重要性を理解し、協力することの素晴らしさを学んだと感じている。 各委員会の活動は温度差があり、役割を理解し活動するまでには至らないものもあった。	同じ目的意識を持った「仲間」としての姿勢、組織や活動を動かす「リーダー」としての姿勢を理解できるように、職員が意識して活動に携わる。  常に意見交換を促し、より良い活動を求め続ける姿勢を定着させる。また、全体の意識統一を図る。

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
図書・視聴覚	1 図書館運営の充実を図る。	①②④	ア. 図書館利用の活性化を図る。 イ. 生徒の読書活動の向上を図る。 ウ. 図書委員会による積極的な広報活動を行う。 エ. 生徒の探求活動に沿った蔵書の拡充を図る。	A	学習の中で困ったときに図書館に来る生徒一人ひとりに対して支援をすることができた。図書委員会による企画を定期的に行い、本の貸し出し数が増えた。	総合研究では引き続き、学年、教科と連携しながら探求する図書館としての機能を果たせるよう努力したい。
	2 視聴覚教育の充実を図る。	①②④	オ 視聴覚教室・視聴覚機材の教育活動への利用拡大を図る。  カ 芸術鑑賞の円滑な運営を行う。  キ 芸術鑑賞を通して、豊かな心を涵養する。	A	視聴覚機材の充実により、授業での活用が増えた。芸術鑑賞ではバンドリーダー久保田氏の半生を描く音楽鑑賞を通して、多くの生徒が自らの進路を深く考えることができた。また、生徒参加型のステージであったため、部活動に打ち込むことの素晴らしさを再確認することもできた。	中信地区合同芸術鑑賞を通して引き続き豊かな心を育てる取り組みを、特に、受け身で観る・聴くだけではなく、生徒参加型ステージを創る努力を続けたい。
保健厚生	1 校舎内外の美化・清掃の強化	②	ア ゴミの分別と減量化・生徒の取り組みの強化	A	ゴミステーション当番や文化祭中の当番活動など、清掃美化委員全員が関わることができた。	当番活動については来年度も継続して実施していく。清掃用具は来年度以降も引き続き定期的に点検や交換をしていく。
	2 検診のスムーズな運営と性教育・薬物教育の充実	①②③④	イ. 保健委員会と職員の協力体制を確立する。 ウ. 外部講師の精選と教育方法の研究をする。	A	スムーズな検診ができた。講演は有効な学びの場になった。	検診の生徒の打合せ時間にもう少し余裕をもたせたい。
	3 職員厚生の充実	②④	エ. ストレスの軽減とリフレッシュ行事の推進	A	各自の体の状態を知り、改善につなげられる内容となった。	次年度は交流も深められる団体競技を検討したい。
渉外	1 学年・学級PTAの充実	②③	ア. 総会・学年・学級PTAを開催する イ. 授業参観や講演会の企画を行う	B	例年とおりに計画に従って行うことができた。日程を含め、参加者の増加の方策を考える必要がある。新年度役員選出に苦労した。	日程・会場については教務、学年、係と検討したい。
	2 PTA活動参加拡大に向けた広報活動の充実	②③	ウ. 寄せ植え研修会やPTA研修旅行に向けた広報活動に勤める エ. 文化祭展示、PTA会報などの広報の充実を図る	A	PTA行事を通して多くの参加者があった。	リピーターも多く、口コミなどによって情報は広がっているが、より積極的に参加できるように考えていきたい
	3 保護者との連携強化	②③	オ. PTA研修やPTA研修旅行を工夫、充実する カ. 強歩大会での援助、豚汁提供など学校行事との関わりを深める	A	役員の方々を中心に、気楽に集まってもらえる雰囲気はできている。	役員との連携を深め、より主体的な活動ができるようにしたい。
	4 同窓会活動への協力	②③	キ. 110周年記念事業へ向け協力体制を整える	B	110周年に向けて役員段階での準備会を行った。	今後、より具体的な動きの中で、同窓会やPTAと学校の連携を深めていきたい。

## 部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
1 学年	1 基本的な生活習慣の確立	①②	ア. 家庭との連絡が密にとれたか。  イ. 安定した生活のリズムをつくらせることができたか。	A	家庭との連絡を密に、特に遅刻・欠席の連絡もしっかりし、生徒の状況把握ができた。概ね安定した生活リズムを作らせることができた。	健康上、不安定な生徒や提出物を出せない生徒には、さらに働きかけを強めていくようにしていきたい。
	2 学習習慣の確立	①②③	ウ. 家庭学習の習慣化に向けてはたらきかけができたか。 エ. 学習意欲を高めさせ、科目選択への意識付けができたか。	B	学習意欲はあるが、家庭学習が定着している生徒は一部にとどまっている。科目選択は熱心に取り組んでいた。振り返りなどクラスシー運用については課題が残る。	学習に関して努力している生徒に対して、学力向上の支援を検討していきたい。進路決定に向けての情報提供を、進路指導部と協力して取り組んでいきたい。
	3 相互理解を深める	②③④	オ. 互いに尊重し合える関係が築けるようにアドバイスできたか。	A	スマートフォンの活用やSNSの利用についての講演会を通じて、人権問題を学び、互いを尊重することを学ぶことができた。	SNSの適切な利用をさらに働きかけて、SNSによる人権侵害について考えさせていきたい。研修旅行先の広島・神戸の学習を深めて、人権意識を高めていきたい。
2 学年	1 進路意識の高揚、集団形成と支援体制を整える	①②③	ア. 学年全体、進路希望別、それぞれの集団での学習活動ができたか。 イ. 進路指導部とキャリア教育推進部の連携によるCPの充実がはかれたか。 ウ. 個別に、学力・生活状況に応じた相談・助言ができたか。	A	学年全体では進研模試を全員受験させるなど、学年・進路別とも学習に取り組ませることができた。夏休みに進路に応じた体験学習を行い、きめ細かい発表会を取り組むことができた。	進路指導部との連絡を密にとり、新しい入試の体制に順応できるように準備していく。進路別による個別の学力支援に対応していきたい。
	2 研修旅行の充実	②③④	エ. 平和学習・防災学習の充実が図れたか。 オ. 訪問する各地の地理・歴史・文化について、理解を深められたか。 カ. 互いに協力し自らの責任を果たし、有意義な研修旅行になるよう指導できたか。	A	研修旅行の事前学習として文化祭の展示を行い、広島・神戸・大阪をテーマとした発表をすることができた。広島平和記念資料館の展示内容が模様替えされて、改めて戦争と平和を考える機会となった。初めて実施した神戸での震災学習は、普段からの防災意識を高めることができ、有意義であった。アンケート結果では生徒の満足度も高かった。	平和記念資料館が大変混雑していたが、十分な見学時間が取れなかったが、その見学を基礎に、今後も戦争の非人間的性と平和の問題について意識を高めたい。また南海トラフ地震などに備えて防災教育の機会をとっていく。
	3 相互理解を深める	③④	キ. 互いに尊重し合える関係が築けるようにアドバイスできたか。  ク. 家庭との連絡が密に取れたか。	B	日ごろから家庭との連絡は密にとることができて、意思の疎通を図ることができた。いじめなどに気を配り様子を見守りすることができた。	各担任、副担任で情報交換を密に行い、学年全体で指導していく体制を確立する。
3 学年	1 進路実現への指導、支援体制の充実	①②③④	ア. 学習意欲の向上、資格取得へのアプローチを図る。  イ. 個性や適性などに応じた進路指導をする。 ウ. 受験準備など計画的に活動できるように支援する。	A	自らの進路を主体的に考えるときともに、その実現に必要な力を身に付けることができた。また、学年全体で一人ひとりの進路実現を応援する雰囲気醸成することができた。	より早い時期から進路実現に向けて取り組む態勢がとれるような指導が必要である。また、センター試験に向けた特編授業の可能性も模索していく必要がある。
	2 コミュニケーション能力の向上	③④	エ. 互いに尊重し合える関係が築けるようにアドバイスする。 オ. 家庭との連絡を密に取る。 カ. 社会の一員となるためのコミュニケーション能力を育成する。	A	生徒同士がお互いを尊重し合い、思いやりをもって接することができた。また、家庭との連携を密にすることができた。	円滑なコミュニケーションを図るのに必要な、語彙力・読解力・プレゼンテーション能力などをさらに高めていくために、様々な場面を通じた指導が重要である。
	3 学校生活の充実と最上級生としての活動支援	①②③④	キ. 学校・生徒会行事において責任ある活動ができるように支援する。  ク. 規範意識を向上させ、社会性を身につけさせる。	A	生徒会活動や部活動などの様々な場面で、最上級生として中心的な役割を担い、充実した学校生活を送ることができた。	社会に出る一歩手前の世代として、責任ある行動がとれるよう、判断力・公共心・社会性などをさらに高めていくことが求められる。